

# 会館だより

謹賀新年

新年明けましておめでとございます。  
今年も館生の皆様が楽しく充実した会館生活を送ることができるよう、職員一同一生懸命努力して参りますので、よろしくお願ひ致します。

昨年もコロナ関連のニュースが全般に多い年でしたが、新規のフワチン接種をすることや新薬で重症化リスクを少なくすることの報告もあります。私たちも新薬やフワチンに期待しつつも感染予防対策は引き続き行っていきます。また、残念な出来事と言えば二月にロシア軍がウクライナ侵攻、四月には知床観光汽船「KANUN」事故、六月の安倍元首相の銃撃など、シヨッキングなこともありました。  
スポーツ界では二月にあった北京五輪での日本

選手の活躍、冬季大会では過去最多のメダル獲得で、高木美帆・平野歩夢・小林陵侑の金メダルや、カーリング女子の銀メダルは特に印象的でした。個人的には知人がコーチしていることもあり、スノーボード平野選手の見事な逆転優勝には歓喜しました。

歓喜といえば、やはりFIFAワールドカップカタール2022での日本選手の大活躍ですね。まさか？のEグループ一位通過。残念ながらベスト8以上の達成はできませんでしたが、日本選手の活躍は本場に「フラボー！」でした。日本が一つになれることもスポーツの良いところですね。

令和五年は「卯年」。うさぎは穏やかで温厚な性質であることから、「家内安全」な意味を示しているそうです。また、その飛び姿から「飛躍」「向上」を象徴するともいわれ、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われているようです。卯年の基本的な性格と

して、物静かで行儀がよく上品で繊細なところと言われ、対人関係においては争いごとを好まない平和主義者なので、回りの意見をうまく調停する聞き上手な人が多いとのこと。どこかの大国の大統領や主席はたぶんうさぎ年ではないですね？

さて、今年も卒業等で退館する館生や新たに入館する館生の受け入れが始まりだし、嬉しくもあり、寂しくもありの時期を会館も迎えますが、特に今年新入館予定者や、保護者様には、学校や会館・札幌での新生活に期待と不安が入り混じっている頃かと思いますが、我々職員一同入館生の皆様が充実した毎日をご過ごせるよう一生懸命サポート致しますのでどうぞ、安心して会館に飛び込んでください。

令和五年一月  
館長 石田 信一  
職員一同

No.81  
発行年月日  
2023年1月吉日  
北海道女子学生会館



編集者  
より  
ひとこと

会館では、会館ホームページやFacebookで、日常風景・会館イベント情報などを発信しております。是非、ご覧ください。

<http://www.hokkaido-nadeshiko.jp>

〒060-0021  
札幌市中央区北21条西15丁目  
tel 011-736-8111

会館から館生にXmasプレゼント



## 2022 クリスマスパーティー

2年ぶりのトイシアターによるバルーンショー



# わたしの会館生活



## 楽しい会館生活

武蔵女子短期大学  
一年 鳥谷部 楓

私は大学進学を機にこの北海道女子学生会館へ入館しました。入館したばかりの頃は、初めて親元を離れる寂しさや慣れない環境での生活に対する不安を感じていました。

しかし、外出するときは必ずスタッフの方が「行ってらっしゃい」「おかえりなさい」と声を掛けてくれます。また、廊下ですれ違ったり、エレベーターを待っていたりすると気さくに声を掛けてくれます。私にとってはこの些細な優しさで寂しさや不安が和んだのでとてもありがたかったです。

私が通っている北海道武蔵女子短期大学は、会館から徒歩で10分もかからないところにあります。そのため帰りが遅くなっても、すぐに会館に着くので便利だと思えます。近くにはスーパーやコンビニもあるので、生活に必要なものは遠くまで買い物

に行かなくても大丈夫だと思います。私が特にいいなと思うのは、クラウドナルドが近いことです。学校があるときは友達と一緒に行くし、休日に食べたいなと思うた時にはすぐに買いに行ける距離にあるのでとてもうれしいです。



会館には会館に住んでいる他の学生と交流ができるイベントもあります。初めての場所でも友達ができるか不安という方も、もしかすると同じ学校へ通う学生がいるかもしれません。そのため、友達ができるかどうかという不安をそれほど感じなくてもいいと思います。このように、私は会館での生活

にはすぐに慣れ、親元を離れる不安もスタッフの方のおかげですぐになくなりました。

今では、快適な学生生活を送っています。

これからも私の生活を支えてくれている会館のスタッフの方や両親、友人への感謝の気持ちを忘れずに充実した学生生活を送りたいと思います。



## 楽しい会館生活

北海道大学  
一年 若林 亜美

私は大学進学を機に地元である石川県から北海道女子学生会館に入館しました。初めて親元を離れての生活でしたが、会館でできた友達や、スタッフさんの優しさに支えられ、ホームシックの気

持ちをあまり感じることなく楽しい毎日を送れています。そこで、私が思う会館の良さを三つ取り上げて紹介しようと思います。

まず一つ目は、美味しい食事です。決まった時間に食べられることです。おかげで生活リズムと体調が整い、一人暮らしの人が、自炊にあてている時間を勉強や趣味に使うことが出ています。特にテ

一つの建物に大勢が一緒に生活していますが、トイレ、お風呂、洗面所、共同キッチンなどは清掃さんが掃除してくださるので、いつもきれいで安心して使用することができ

ます。

また、会館に入る前は隣の人や近くの部屋の人の騒音トラブルが心配でしたが、部屋の中にはほとんど聞こえず、生活音はほとんど聞こえず、夜もとても静かで快適です。

そして三つめは会館の友達が優しいことです。朝会つたときは「おはよう」大学に行くときは「行ってらっしゃい」といつも声を掛けてくださいます。同じく会館で生活している学生の方たちも工



## 会館に咲くお花たち

会館には、四季折々の花をお部屋の窓から、あるいは会館前の通学路から楽しむことができます。

春には、桜や梅の花、チューリップや水仙、バラの花なども。

秋には様々な種類のダリヤが咲き、わざわざ遠方から見物しに来る方もいるほどです。

四月、十月は特に見ごろなのでぜひ、見に来て下さい。

# わたしのふるさと

## 私の故郷

北海道医療専門学校  
一年 武部 愛里



私は、道南にある八雲町の出身です。八雲町は札幌に行くには車で4時間弱かかる少し遠い場所にあります。札幌に引っ越してくる前は2〜3回の頻度で遊びに来る程度だったため、今では前

より市内で遊ぶことも増え、一人で出かけたり、友達と遊びに行ったり新しい発見をするのがとても楽しいです。八雲町は人口約1万6千人ほどのそこそこ小さな町で漁業や農業がとても盛んです。日本で唯一、太平洋と日本海、二つの海を持つ町というキャッチコピーがある。春になると「みみづり」という養殖業が行われます。みみづりとはテグスというプラスティック製の針が等間隔についている細くて長い丈夫なロープに、ほたてを二つずつ吊り下げて、それを海につるすホタテの養殖のことを言います。私は親戚が漁師だったので、みみづりはとても

身近な存在にありました。私だけでなく周りの友達も小学校低学年から高校三年生まで毎春、みみづりを手伝いお小遣いをもらっていましたが、小学生のころからアルバイトができる環境はなかなか珍しいと思います。他にも八雲は徳川開拓の地として有名です。北海道で有名な木彫り熊は尾張徳川家当主の徳川義親によってイスからもたらされたものです。八雲町で盛んな酪農も同じく尾張徳川によって普及されました。小さいながらも八雲町はいいところがたくさんあり、誇りが持てる地元だと言えます。現在私は医療系の学校で

薬のことについて学んでいます。専門学校のカラダは40人程度で高校の時とあまり変わりませんが、いろいろな地域から集まったクラスメイトとの交流が毎日新鮮で楽しいです。札幌での生活は地元が恋しくなりませんが、帰省を楽しみに頑張りたいと思います。



## 自分のふるさと

北海道芸術デザイン専門学校  
一年 大関 葵衣



自分のふるさは、根室市という札幌市からほぼ反対側にある田舎町です。北海道の最東端に位置する小さな町ですが、花咲ガニやサンマなどの魚介類がとて有名です。実家ではよくイクラやウニ等をもろろすることが多く、

よく夕飯に出てくることがありました。自分が特に好物なのが、鮭やサンマです。よく母親が夕飯に焼いてくれる焼き鮭やサンマが絶品です。また、我が家では誕生日祝いで親戚達も集まってお寿司を頼んで食べるのですが、これも絶品です。魚介類も良いのですが、エスカoppやオランダせんべいも有名です。どちらも根室発祥の名物なので、食べたことがなかったらぜひ食べてみて下さい。自分も家族から大量に送られてきたオランダせんべいを久しぶりに食べましたが、とても懐かしい味で、早く帰省したいと思

いました。さすがに食べきれなかつたので、自分が通っている専門学校のクラスメイトに分けたとき、「初めて見た」という声が多かつたので少し驚きました。そして、根室市は「朝日が一番近い街」と言われており、市内にある納沙布岬でみる朝日は絶景と言われている。毎年元旦になると世界各地の観光客が訪れているそうです。また、納沙布岬は北方領土の一つである歯舞群島も見ることができ、近くにある「北方館」では、北方領土に関する動物や魚類、地図などを学ぶことができます。施設があります。自分も小学校の時であった校外学習で

行っていたのをよく覚えています。本日は五月に一度帰省したかつたのですが、コロナ禍ということもあり、帰省できなかつたので、地元が恋しくて仕方ないです。時々家族でビデオ通話をする時もありましたが、直接会いたいと思う気持ちが強まる一方です。年末に帰省したら思い切り地元を楽しみたいと思います。



## 留学生が来ました

今年、イギリスから留学生が来てくれました。毎年、会館には数名、留学生が行っていましたが、コロナが流行して以来、海外からの利用はなくなり、二年ぶりの留学生となります。

シスリさんは、九月の末に日本へ来て十月から北海道芸術デザイン専門学校の留学生として通っていました。彼女は、会館で暮らし始めたころから、時間があつたらちこち探検してみることが好きらしく、会館の貸自転車に乗って、「三角山まで行って来た。ちよつと疲れたけど、きれいだった。」と嬉しそうに話してくれました。



## 札幌での新生活

私は、英語のレベルをもっと上げたかったので、四学科もあつたり個性的で魅力がいっぱいの国際情報高校に入学したいと思い、地元の釧路を離れることを決めました。

最初、学校が始まる前はまだ友達とかもいなくて会館にも慣れていない状態で、食欲がなくなったりつらいことも多かったけれど、先輩が気にかけてくれたり、会館の人からの声掛けが心の支えになりました。

今は会館生活にも慣れて楽しい生活をしています。が、レベルの高い勉強と忙しい部活との両立が大変で毎日多忙な日々を送っています。

勉強面では一人で部屋にいて集中できなかつたり、実にならないと思うときは一階の談話室や食堂に行つて勉強できることがうれしいです。

部活だと、私は吹奏楽部(Symphony)に入っていて強化練習や校外練習の時は朝から夜の22時になってしまうことがあります。

でも会館の方々が理解してくれるので安心して部活に集中することができます。

私が札幌に来て再確認できたことは、周りの人や環境がどれだけ大切かということです。

今は自分でしなければならぬ洗濯や部屋の掃除など、これ以上の家事をこなす家族が改めてすごいと思うし、まず、ひとり立ちを許してくれたこと自体、感謝しかないと思います。

そして一緒にいてくれる友達もみんな最高なので日々幸せに思います。

最後にこの学校に入ってよかったと心から思えるし、家族がいてくれてよかったと思います。



国際情報高校

一年 太田 奏音



## 2年ぶりのジンギスカンパーティー

やっぱり外で食べるジンギスカンは最高!



次回をお楽しみに!



★会館のHPとFacebookもご覧ください★ 「北海道女子学生会館」で検索!